

えんがわ

第59号

2012年2月発行

発行元
衣笠病院グループ
横須賀市小矢部
2-23-1
TEL046-852-1182

泣き、笑い 内科病棟

衣笠病院の内科病棟では、来る日も来る日も点滴や食事介助、おむつ交換、痰の吸引などに追われています。その中でも、忘れられないエピソードを紹介しようと思います。

癌が骨に転移し、身体を動かす時に強い痛みがある患者さんがいました。ある日、スタッフが泣きながら

その患者さんの病室から戻ってきました。どうして



もトイレでお通じを出したいという患者さんの切なる願いに応え、四く五人のスタッフと患者

さんが力を合わせ、ポータブルトイレへ移動し、よいお通じが出て、患者さんと共に泣きながら喜びあったというのでした。その涙の暖かさは格別！わたしも当然もらい泣きです。後でその患者さんから、「師長さんはよいスタッフをかかえているね」と誉めていただき、また涙でした。その患者さんは間もなく帰らぬ人になりました。

私に限らず、看護師たちはエンドレスのケア処置の中でも、心の宝箱に忘れられない患者さんをしまいきょうもナースコールにこえて病室に向かって行きます。

衣笠病院東五階病棟
看護師長 柏瀬祐子

えんとくがわ 在宅モエ

高齢者の 転倒について

高齢者でよく起こる骨折の一つに大腿骨頸部・転子部骨折があります。ふとももの太い骨が股のつけ根に近い部分で折れることを指します。五十歳以下ではほとんど起きませんが、七十歳以上になるととても多くなります。これから高齢化を迎え、今は日本で年間十七万人くらいの人が受傷しています。三十年後には二十七万人くらいの方が受傷すると言われます。大腿骨頸部・転子部骨折は単純な転倒で起こることが多いため、転倒により起こる骨折を予防できます。家庭の中で高齢者が転倒する原因がたくさんあります。敷居な

どの小さな段差、電気コード、カーペットの端、滑りやすいフローリング、夜間の照明不足などの環境を改善することで転倒を防止できます。また、脳卒中、パーキンソン病、骨関節疾患、視覚障害の患者さんは転倒しやすいので注意が必要です。催眠剤、鎮痛剤、向精神薬、降圧剤などを内服している



と転倒のリスクが高くなります。

衣笠病院 内科
医師 南信明

セイカテンから荷物が届くというので甘いお菓子が来ると子供が期待していました(製菓店)が、お花が届き(生花店)、ちよつとガツカリ。果物でも嬉しかったかもしれません(青果店)。